

良識ある保守主義・情報公開

# 吉田つとむ

町田市議会議員 4 期連続トップ当選

<編集発行>

〒194-0011 町田市

成瀬が丘 1-14-12

サンホワイト E103-13

自宅 042-795-7361(fax 兼用)

市議会議員 吉田つとむ

yoshidaben@gmail.com



## 影山メソッドと金山小学校の 100 マス計算

田川市立金川小学校の【金川タイム参観】(音読、100 ます計算、漢字学習)、【金川タイム参観】算数科「分数×分数」(集中速習型授業)を参観しました。学校は、新井よしなお議員の勧めで視察見学したもので、いわゆる陰山メソッドの反復学習の推進校といえるものを、その実例の教室に入って見学したものです。クラス数は 2 クラス、参観した 6 年 1 組の新穂学級のプレ授業、科目授業を参観したものです。教室には 26 の机椅子があり、その日に私がカウントした人数は 24 名でした。



まず、音読では、複数の文を大きな声で読みあげてをしていました。しかも、きっちり立った姿勢での音読でした。当初は、気恥ずかしいものだったのではないかと感じましたが、慣れが一番、覚えることでさらに前に進み、次には少なからぬ児童が暗唱にステップアップしていました。次いで、有名な 100 ます計算ですが、ここではパソコンに、別添えのキーボード記入をしていました。テンキーをパソコンのそばにおいて、目にもとまらぬ速さでキーを打ち込むものです。児童が早くからパソコンに慣れるのは重要ですが、テンキーがついていないタブレットでは、速さを求めることは難しいと思います。計算の正確さ、スピード感(単位時間 2-3 分の達成数でカウント)なお、数字の打ち込みが終わると、共通のボックスに収納していました。

漢字学習には、参考書と学校配備の辞書が使われていました。私が使っていた国語辞典のタイプとはまるで違い、基本の文字が大きく、また説明や例示が詳しいベネッセの辞書でした。教室の外から持ち込みにしていました。この漢字学習の印象では、ドリル式と似たものでした。一文字づつ、正確に覚えることを特徴にしているのでしょう。これらもすべて、タイトに進められるのが特徴でした。(次号に続く)

## 日本初の世界記憶遺産：炭坑の記録画鑑賞

日本には、8 件のユネスコの「世界の記憶」が登録されています。本年、1 件追加。その趣旨は、「世界的に重要な記録物への認識を高め、保存やアクセスを促進することを目的とし、ユネスコが 1992 年に開始した事業の総称。本事業を代表するものとして、人類史において特に重要な記録物を国際的に登録する制度が 1995 年より実施されている。」とされています。そうした中には、伊達政宗による「慶長遣欧使節関係資料」や、平安中期の関白として有名な藤原道長の日記があり、この 4 月に「増上寺が所蔵する三種の仏教聖典叢書」(徳川家康が収集させた、木版の 5,000 巻を超える仏教聖典の叢書)が追加決定しています。

それらに先駆けて、日本第 1 号の指定を受けたのが、「山本作兵衛コレクション(山本作兵衛氏の炭坑の記録画並びに記録文書)(所有者:田川市石炭・歴史博物館)」です。一人の元炭鉱夫が描いた墨絵や水彩画の記録画です。石炭がエネルギー源として活用され、石油に取って変わられる、近代産業のエネルギー革命の中で一個人が制作したものです。山本作兵衛は、特別の美術教育は一度も受けたこともなく、趣味的に描き続けていたものです。それをたまたま知った文化や芸術に造詣が深い人たちが本人を励まし、作品の制作や刊行を進めたものです。

文化や芸術の発展はどうあるべきかと言うことに関して、町田市にも示唆を与えてくれる作品群でした。無所属会派で田川市を訪れた際に作品鑑賞。



来訪時は、日露戦争やコメ騒動などの時代の世相画の展示構成

\* 田川市は盆踊りで有名な炭坑節の発祥の地でもある

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう！

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員 3 名で構成し、明快な議論を提起します。

若い世代の育成に全力をささげる  
町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表)

# 吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは  
左記を読込  
して送信



好評インターンシップは、第  
55期生が終了しました。

## 名槍:日本号と飲み取りの誉れの言い伝え

名槍:日本号は、黒田節に出てくる槍で、黒田藩の母里太兵衛が福島正則から酒の飲み比べを強いられ、鮮やかに飲み勝って手に入れたことで、呑み取りの槍とも言われています。福岡市博物館が収蔵するものですが、国宝金印と並び(あるいは、次いで)高価値と人気を持っている展示品です。観覧者にとって良いのは、秘蔵の取り扱いを受けるのではなく、常設展示室に置かれ、一般の入場料で観覧できる点が博物館として優れた展示物と言えましょう。

この名槍:日本号は作者不詳ですが、皇室収蔵の御物でした。それが時の正親町天皇から、室町幕府の第15代将軍足利義昭に下賜され、それ以降は時の権力者である織田信長、豊臣秀吉に渡し、その秀吉から福島正則と渡し、最後に母里太兵衛に渡ったものです。名槍:日本号は、天下の3名槍の一つと



言われ、総長321.5センチメートル、穂先は79.2センチメートルあり、柄の部分にはきれいな螺鈿の装飾が施され、一見実用品には見えませんが、穂先の部分に打ち込みの傷があることを担当の学芸員の方からご説明いただきました。槍が工芸品としての飾り物でなく、戦場の実用品であることを改めて学びました。

## 国宝金印を飾った福岡市博物館

漢委奴國王と読まれた本物の国宝金印を見る

福岡市博物館にある国宝金印を初めて見学しましたが、本物を常時展示室で一般に公開しているのが特徴でした。この国宝金印は、歴史の小学校教科書にも出てくるきわめて珍しい遺物であり、古代アジアの支配者であった中国王朝(皇帝)が、各地の王に配ったものです。後漢代には、「親魏倭王」印が日本の王に贈られたと中国の史書に記録されています。

福岡市博物館には、この実物大レプリカが展示されており、さらに、国宝金印は来場者が手に取ることができる簡易レプリカ(①同じ寸法の印:約2.3cm、同じ重さの印:約108g)も置かれており、見学者に人気でした。



無所属会派視察:福岡市博物館常設展示室

館の説明では、「国宝金印は三行の文字、漢・委奴・国王で構成されています」と記していますが、大半の学者と同じく「かんのわののこくおう」と読まれています。当時の中国王朝が作った印は、玉璽が皇帝、金印は皇帝が認定した(現在の国家に相当する領域の公権力)の王、その下には、銀印や銅印を渡していたことで秩序を作っていたとの考えを持ちました。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2025年3月末までに111名が参加しました。

◎第55期インターン生の森田瑛斗さんは、医師国家試験に合格し、4月1日から研修医として社会人。

◎次回のインターンシップは、2025年夏季第56期生の募集を開始しました。